

令和6年度第2回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和6年9月12日（木）14：00～16：30

場 所：琉球大学病院3階がんセンター及び各施設（ハイブリッド会議）

出席者：13名

〈がんセンター・10名〉

仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、玉城佐笑美（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、横田美佐（県立宮古病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、上原弘美（友愛医療センター）、間島奈央子（キャンサーフィットネス）、田場純子（沖縄県保健医療部）、増田昌人（琉球大学病院）、友利晃子（琉球大学病院）

〈ZOOM参加・3名〉

糸数真理子（那覇市立病院）、富里果林（南部医療センター・こども医療センター）、大久保礼子（琉球大学病院）

欠席者：3名

伊禮智則（那覇市立病院）、西村克敏（地域統括支援センター）、有賀拓郎（琉球大学病院）

陪席者：1名

松田亮子（琉球大学病院事務）

【報告事項】

1. 令和6年度第1回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和6年6月6日）

資料1に基づき、友利委員より、令和6年度第1回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

【協議事項】

1. 沖縄県がん診療連携協議会_指標の計測から評価・改善へ

資料2に基づき、増田委員より、第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）について説明があった。ロジックモデルの中間アウトカム1-1を達成するための個別施策1-1～1-3について協議された。

○個別施策1-1

増田委員：「がん相談支援センターに準じた組織の構築」について、がん診療を行う医療施設へアンケート調査を実施予定の為、10月にデータが揃う予定である。

○個別施策1-2

増田委員：治療開始前にがん相談支援センターへの立ち寄りとは県拠点の琉大では義務

になっているが、次の改定では6拠点病院で義務になる為、各病院がん相談支援センターに立ち寄った患者の割合をデータで取っていただきたい。

増田委員：指標に「治療方針の決定前までにがん相談支援センターに立ち寄った割合」はあるが、その前段階の案内する・連れて行く等の指標や方策があれば意見をいただきたい。

大久保委員：他院通院中の患者さんからの相談では、かかっている病院での相談窓口が分からないという声も多く寄せられている。拠点病院は相談センターの窓口を分かりやすい場所に標榜することが義務として整備されているが、沖縄県全体で半分以上の患者は拠点以外でがん診療を受けている状況を考慮すると、拠点病院以外のがん診療病院で相談窓口を明示している数を指標に入れるのはどうだろうか。

○個別施策 1-3

増田委員：この個別施策の指標が十分であるか否か協議していただき、今後の見通しも含めてこの施策が質の高い相談を受けることの指標にならないようなら、指標から除外し新たに別の指標をいれるなど意見をいただきたい。

① 認定がん相談支援センターの数

友利委員：申請の条件が厳しいが認定を取得できるよう準備をしていると回答があった。

② 認定がん専門相談員数

仲宗根委員：認定がん専門相談員は、④相談員基礎研修(3)修了者が取得できるので、相談員基礎研修(3)修了者数を増やし確保する事が必要ではないかと意見があった。

③ 相談員指導者研修修了者

友利委員：主に相談員向けの研修を企画するための研修で琉大病院、中部病院、那覇市立病院に修了者がいるためある程度基準をクリアしているのではないかと述べられた。

④ 相談員基礎研修(3)修了者数

増田委員：がん診療を行う医療施設へアンケート調査を実施予定である。

○中間アウトカム 1-1

増田委員より、がん相談支援センターに来室する患者はどこからの紹介が多いのか質問があった。友利委員より、資料12-2に基づき、担当医と院内の看護師からの紹介が多いと回答があった。増田委員より指標の「がん相談支援センターについて十分な情報提供を行った患者の割合」が低い部分について改めてディスカッションしていただきたい。また、医療者調査で情報提供を行った割合の職種別（医師、看護師、薬剤師、MSW）で統計を出している資料や痛みのモニタリング結果等の資料があるので、委員の皆様

にメールで送付するとアナウンスがあった。

2. がん相談従事者研修会の開催について

資料3に基づき、大久保委員より、9月28日開催予定の第1回がん相談従事者研修会の進捗報告と申込み期間延長のお知らせがあった。また、12月開催予定の第2回研修会の日程について、12月は琉球大学病院の移転がある為1月か2月に延期し開催、または12月であれば開催場所をご提供いただきたいと提案があり、日程は1月か2月で開催することとなった。研修会のテーマ・内容については、対象者理解とアセスメントで企画をすすめることとなった。

3. リレー・フォー・ライフについて

友利委員より、リレー・フォー・ライフの出店について提案があり承認された。

上原委員より、出店ブースは屋内で仕切りがない会場になっておりパネルで仕切る予定である。パネルにはポスターなど掲示物を貼ることも可能。個別相談の希望があればカフェスペースのようなフリースペースの部屋があるため、使用できるように工夫可能と回答があった。また、友利委員より、参加の協力依頼があり、仲宗根委員、糸数委員、玉城委員、田場委員、増田委員、が参加可能と回答があった。

4. 部会活動行動計画の確認

資料4に基づき、友利委員より今年度の活動計画の説明があった。今後、部会で達成度や進捗の確認をおこない必要に応じて新たな指標を追加していくと述べられた。

5. その他

増田委員より、ロジックモデルと指標の活用の仕方を身につける研修会について、周知と参加依頼があった。がん診療連携協議会主催で、第1回は11月17日、第2回は12月22日開催となっており、第1回と第2回は同じ内容の研修会となっている為、どちらかにご参加いただきたいとアナウンスがあった。

【報告事項】

2. 地域統括相談支援センター活動報告

資料5に基づき、紙面報告となった。

3. 第22回都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会（令和6年5月24日）

資料6に基づき、友利委員より報告があった。主に大規模災害時の情報共有であった。がん情報サービスに災害時関連情報のサイトがあり、災害発生から1週間を目処に、災害地域以外の周辺の病院で患者受け入れの支援可能施設を把握できるようになってい

る。災害発生時に入力する病院情報入力フォームの案内や報告があったとの事だった。大久保委員より、入力には各病院でするのか拠点病院が取りまとめて入力するのかと質問があった。友利委員より、国立がんセンターからのフローはない為、県内でどのようにするのか考える必要があると回答があった。増田委員より、現時点では各病院から入力すると取り決めし、次回の部会で協議し決定するのはどうかと提案があり承認された。また、各拠点病院の BCP について調べていただきたいとアナウンスがあった。

4. 沖縄県若年がん患者等支援事業

資料 7 に基づき、友利委員よりアピアランスケア支援事業と若年がん患者在宅療養支援事業の実施市町村の報告があった。上原委員より、事業の周知について質問があった。田場委員より、令和 5 年度に各市町村の担当部署へ実施する要項案を文章で周知していると回答があった。また、令和 5 年 3 月末に事業について実施するか否かアンケートを行ったと述べられた。増田委員より、患者会が議員に働きかけた地域があり、地元の住民や患者会が動く事業を実施していく市町村が増えていくのではないかと意見があった。

5. アピアランス啓発チラシの配布

資料 8 に基づき、事務局より 7 月に各拠点病院へアピアランスケア啓発チラシとポスターの配布を行ったと報告があった。

6. 中皮腫セミナーについて

資料 9 に基づき、友利委員より報告があった。7 月 13 日に沖縄県立図書館で開催され 30 名ほどの参加があった。一部は国立がん研究センター呼吸器内科の吉田先生、福田先生、琉大病院第一内科古堅先生、患者の鹿川氏による講演、二部は質疑応答など座談会を行った。治療中の患者さんから、治験についての質問や、県外・本島で治療を行った後のアフターフォローなどの質問があった。非常に盛況であったと報告された。

7. がん患者ゆんたく会（4～6 月）

資料 10-1～10-3 に基づき、令和 6 年 4 月～6 月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について報告があった。中部病院は玉城委員より報告があった。リピーターの参加者が多かったが、がん経験者と話がしたいと新規で参加された方もいてぎくばらんな会であった。また、6 月には七夕が近かった為笹を準備し短冊を飾った。那覇市立病院は糸数委員より報告があった。「情報を集める時に大切にしたいこと」をテーマに講話を行った。がん情報サービスのサイトを参考にスライドを作成し患者さんにレクチャーをした。琉球大学病院は友利委員より報告があった。4 月は薬剤師による講演、5 月は社会保障制度について、6 月はピアサポーターの体験談の講演を行い後

半はフリーストークで実施した。

8. がん相談件数（4～6月）

資料 11-1～11-7 に基づき、令和 6 年 4 月～6 月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

在宅療養の相談が多かった。長期在宅療養中の高齢者のご家族から療養先についての相談が増えており、期限をきめて療養し在宅に戻るなど入退院を繰り返すケースが多かった。

○県立中部病院（玉城委員）

相談者は外来通院や高齢者が多く、家族とのコミュニケーションや不安の相談が多かった。また、不安の強い方のご家族から頻繁に連絡がくるケースがあった。電子カルテの集計が取りやすくなった為相談件数が増加している。

○那覇市立病院（糸数委員）

6 月は電子カルテのシステム移行があり相談件数が減少している。また、40 代や 50 代の相談者からお子さんへの伝え方について悩んでいると伺い、子供の年齢層にあった冊子を提供し一緒に読みながら伝え方のポイント等を話した。

○県立宮古病院（横田委員）

相談内容に変化はなかったが、50 代のターミナル期の患者さんに関わる調整や相談が多かった。他病院と連携する事案があり、がん相談員同士で連携を取ることができよかった。また、県外の社会的サービスのやり方に違いがあり訪問看護についてなど参考になった。

○県立八重山病院（岩崎委員）

相談内容に大きな変化はなかった。患者さんの自宅を訪問し実際に必要な手すり等検討し対応した患者さんがいた。また、那覇市立病院や八重山病院から話題に上がった子供の相談について、当院にチャイルドライフスペシャリストがおり、緩和やグリーフケアなどおこなっているので困っている事があれば繋ぐことも可能なので連絡いただきたい。

○琉球大学病院（友利委員）

相談者はリピーターが多く、相談内容はホスピスや在宅調整の相談件数が多かった。

9. がん相談件数集計（1～3月）

資料 12-1、12-2 の通り、各拠点の相談件数集計の統計表に基づき友利委員より報告があった。相談集計の1月～3月は数値が見えるように表にまとめて、令和5年度全体の相談集計は各施設別でグラフにまとめている。相談センターへの訪問を担当医から紹介があるとはほぼすべての方が来室している。相談方法は対面が増加しており、利用時間は15分～30分以内が多い。

10. がん相談支援センターの広報

資料 13 に基づき、がん相談支援センターの広報について友利委員より報告があった。毎週掲載するよう依頼している。引き続き広報依頼を行う。

11. その他

- ・次回開催は、令和6年12月12日（木）14時から開催。